（別紙4）　　2020　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）　2020

事業所番号	2690600131		
法人名	医療法人社団　長啓会		
事業所名	グループホーム京都左京の家		
所在地	京都市左京区静市市原町646－2		
自己評価作成日	令和2年11月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　野の花
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地
訪問調査日	令和2年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様の立場に立ち、常に尊厳と敬愛を持って支援し「顔見知りでもなく、友達でもなく、ファミリーである」事を念頭に置きながら介護している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

京都市左京区の北部、山の中腹に立つ木造3階建、2ユニットのグループホーム、開設6年になる。今年度から管理者が交代、理念を策定し実践に励んでいる。職員交代はなく、お互いに助け合う明るいチームになっている。今年はコロナ禍のため外出や行事が少なく、家族の面会もままならない。職員は常に利用者に寄り添い表情を見て窓を開けて外の風景を見せる、他の階へ行く等閉塞状況を何とかしたいと努力している。庭にベンチを置き利用者がおしゃべりやお茶をし、畑で野菜を育て食卓に上る。1階では職員がコーヒーを点て利用者はいつでも飲みに行ける。クリスマスには利用者がみんなのマフラーを編み、プレゼントのお菓子を入れる箱をみんなで作り、サンタになった職員から副引きを引きプレゼントをもらった利用者は大喜びである。食後食器を洗い棚に片づけていた利用者は責任感が強く疲れるので他の利用者にも仕事を分けている。利用者と職員との対等関係のもと、共同生活を実践している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果（該当するものに○印）	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果（該当するものに○印）	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心して暮らしていけるよう介護者は常に本人に寄り添い、その人らしく生活出来るよう支援している。	管理者と職員が話し合い、グループホームの理念「利用者の立場に立ち、常に尊厳と敬愛をもって支援し、顔見知りではない、友達ではない、ファミリーであることを念頭に介護しています」を策定、ホーム内に掲示、職員は常に確認している。利用者や家族、地域の人に広報している。理念の実践として職員は「常に自分の親を介護しているという気持を忘れずに」利用者に接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、地域ケア会議等を通じて情報交換及び交流を図っている。	利用者は近くの山や小川の見える景色の良い所や喫茶店、スーパーやコンビニ、ユニクロ、しまむら、薬局等の地域の店へ散歩や買い物に行っている。6月以降は店が閉店になったり、散歩も中止にしている。自治会に加入している。自治会の行事が中止、グループホームの行事に地域の人を招待していない等、地域の人との交流は少なくなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括、地元社会福祉協議会、地域イベントに常に参加していたが、新型コロナ蔓延後は殆どの行事が中止となり参加出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は1月に開催後は新型コロナの影響でいったん中止し、7月から開始している。感染予防対策等について話し合い、非常に参考となった。	市原自治会連合会会長、老人福祉員、市原学区社会福祉協議会、市原消防団、洛北病院、京都市北部地域包括支援センターが委員となり、隔月に開催、会議記録を残している。記録は全家族に送付している。ホームから利用者状況、行事を報告後、意見交換している。会議が開催できないときは電話で意見を聞いている。「利用者が運動不足にならないようにしてほしい」「災害時はエレベーターが停止するがその対策はあるのか」等、意見をいただき、対策を立てている。	運営推進会議は家族、地域の人、行政が参加して地域密着型サービス事業所であるグループホームの運営や利用者の暮らしについて点検、協議する会議である。1ユニットにつき2人以上の家族が参加すること、ホームからは利用者状況と行事だけでなく、職員研修実施や事故・ヒヤリハットも報告すること、コロナ禍で会議開催が無理なら文書で意見をいただくこと、会議記録ではなく、議事録を残すこと、以上の4点が求められる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナの為、行政機関に行く回数は非常に減ったが、必要時は電話で報告、情報交換を行っている。	京都市や左京区とは必要な報告や相談をし、連携をとっている。地域ケア会議に参加、情報交換や交流、学びをしている。会議開催がない時も区から情報が配信される。認知症ネットワークに参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束なしを継続中。今後も身体拘束をしないケアに取り組んでいく。	身体拘束をテーマに職員研修を年3回実施、職員はやむを得ず拘束する場合の3要件やスピーチロックを認識している。医師の意見により、1人の利用者をベッド4点柵にしている。検討会議を開催、家族の同意をとっている。玄関ドア、ユニットドア、非常口等、施錠している。エレベーターはキイロックであり、ドアの横にナンバーを掲示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	どういった行為が虐待になりうるのかを常に職員と話し合い、注意し合える関係性を築く努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の理解を深め個々の必要性を話し合う機会を持てるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は文面では理解頂けない箇所もある為、分かりやすく説明して納得頂く様心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族様が意見、苦情が言える様、常からコミュニケーションを図り、関係性を深める様努力している。	家族の面会は多く、毎週くる人もあったが現在はホームの入口で職員に会うだけにしている。グループホームの行事にも招待していない。家族には事業所から行事、職員異動、職員紹介を報告している。カラフルな写真を多数掲載した広報誌を送付している。また利用者の担当職員が書いた手紙と写真を毎月送付している。「楽しく、元気に過ごしていることがよくわかる」「事故なく、病気せずにいてほしい」等、来訪時や電話で家族の意見を聞いている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案、意見等は緊急性のある事案については随時報告を受ける旨伝えている。それ以外は職員会議で発言してもらっている。	職員の全体会議はなく、リーダーが中心となりユニット会議を開催、利用者のカンファレンスをしている。管理者は職員同士の人間関係がスムーズにいくように、相互に話しやすい関係を作り、日常的に職員の意見を聞いている。働きやすい環境づくりとして希望休を導入、有休をとりやすくしている。内部研修は身体拘束、虐待、法令、感染症、認知症等必要なテーマで年間プログラムにより毎月実施、外部研修は受講していない。資格取得には受講しやすい環境をつくっている。職員の意見としては夜勤体制についての不満がでている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	満床維持に対する達成手当支給、資格取得へのバックアップ、労働環境整備等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	文書での研修が多いが働きながら学べる利点もあり有意義と感じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	通常は地域ケア会議等に出席し同業者と交流する機会があるが、今年はリモート、文書での交流になっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集の段階で本人、家族様より入居の動機や生活に対する意向等をお聞きする。施設生活の実際を説明し、納得頂いた上で入所して頂く様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を知る上で家族様のお困りごと、実情、要望等を常に伺いながら関係性を築くようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは当施設で出来る支援を考えた上で何を優先すべきかをご提案していくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者は常に利用者から色々な事を学ばせているという事を念頭に置きながら、本人が必要としている事を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様々な事情で本人は家族と離れて暮らしている。本人が穏やかに暮らして頂く為には家族がなくてはならないものと理解した上で共に本人を支えていける関係性を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって身内、近所の方等の来訪はとても喜ばれる。その方達との会話の中から本人の馴染まれている事は何かを知り支援に繋ぐように努めている。	行きつけの美容院に家族と行っている利用者がある。利用者が以前近所づきあいをしていた人が面会にきてくれる。利用者のかつての職場の仲間が面会にくる。	長い人生の後、利用者は今グループホームで最後の日々を過ごしている。昔仲良くしていた友人、同級生、趣味の会で親しかった人、長く会っていないのでどうしているか、もう一度会いたい。昔住んでいた家、先祖の墓、夫と初めてて出会った場所、毎年花見をしていた所、毎年見ていた祭り、それらの場所へもう一度行ってみたい。このように利用者がもう一度会いたい人、もう一度行きたい場所への支援をすることが求められる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士には気の合う、合わない方がおられる。利用者が不快なお気持ちにならないよう会話支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後も相談に応じる事をお伝えしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や意向は介護者は当然把握しておくことが必須である。本人主体での支援が基本であると周知徹底している。	契約時には管理者とケアマネジャーが利用者、家族に面談し、グループホームの生活等を説明、同時に利用者の介護や医療の情報を収集している。またグループホームの生活についての希望を聞いている。利用者の意向は「皆さんと一緒に楽しく過ごしたい」「違う施設にきたので不安です」等、率直な思いを記録している。利用者の生活歴は京都、福井等出身地、染織屋、法衣店、公務員、5人兄妹、3人兄弟、3歳で養子に等生家や子ども時代のこと、会社員、染織屋、有名なお好み焼き屋等、現役時代の仕事、お琴、茶道、生け花等趣味等、記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの段階で情報収集を行い、これまでの経過等を職員で共有し支援に繋げるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の持てる力を十分に発揮して頂ける支援を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態把握を常々行い、現状に合ったケアのあり方等を話し合い、介護計画を作成している。	利用者の担当職員がアセスメントし、計画作成担当者が利用者、家族の意向を踏まえて介護計画を作成している。介護計画は身体介護、受診等の医療対応、外出等の生活の楽しみ、入浴拒否対応等の認知症関係、これらの種々の内容が混在している。利用者の意向に添っていない。サービス担当者会議に利用者、家族、医師等が参加していない。介護記録は食事量、水分量、バイタル、入浴、排泄、服薬、日中記事、夜間記事等、生活のデータと利用者の様子を書いている。介護計画の実施記録はない。モニタリングは毎月実施辞しているものの介護計画の評価ではない。	介護計画は利用者の意向に添ったものであり、身体介護の項目、その人固有の生活の楽しみの項目、認知症周辺症状への対応の項目、この3項目が必要であり、介護職員への指示書として項目を分け、明確に書くこと、サービス担当者会議には利用者、家族、医師等が参加すること、介護記録は介護計画の項目ごとに実施した時の利用者の表情や発言を書き、モニタリングの根拠になるようにすること、モニタリングは長期目標等の点検ではなく、介護計画の評価にすること、以上の4点が求められる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	自身の記録記載のみに没頭せず、他職員の記録にも目を通し、気づき等あれば随時話し合うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況を踏まえた上でその時々のニーズに対応出来るよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響で地域での催しは全くなかった中で利用者の楽しみを見つける工夫は常に行ってなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設と連携している医療機関を本人、家族に説明し納得頂いている。かかりつけ医とは連携を密にし24時間体制で診察してもらっている。	利用者全員が協力医療機関である渡辺西賀茂診療所から毎月往診にくる医師がかかりつけ医となっている。歯科や認知症の受診も同診療所である。グループホームでの利用者の日常の状況を看護師が毎週医師に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護と看護の連携を密にし、利用者が適切な受診、治療、看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院との情報交換を適宜行い、退院後も当施設で安心して生活して頂けるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化又は終末期の支援については入所時に家族に説明し納得頂いている。状態変化時は早めに主治医から家族に状態説明してもらっている。家族の意向に沿って主治医、家族、管理者等で話し合っている。	利用者の重度化や終末期に関するグループホームとしての方針を文書にし、契約時に利用者、家族に説明し、利用者、家族の意向を聴取している。「看取りはしない」という方針であるものの、利用者が高齢で老衰の状態が進み、かかりつけ医に相談しながら、看護師、職員の見守りにより亡くなられたという事例がある。職員には良い経験になり、安堵感が残る。家族からは感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応を全ての職員は把握していないが異変時は主治医、管理者、看護師に連絡するよう指導している。主治医、管理者等は職員から聞いた上で随時対応指示をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。推進会議時に消防署員の方から防災について指導してもらっている。地域との協力体制作りに努力していく。	消防署の協力のもと火災の避難訓練を年2回実施している。地震、風水害の訓練を実施している。夜間帯の訓練はしていない。備蓄を準備、ハザードナップはスタッフ室に掲示、職員は危険個所を認識している。災害時における法人内相互協力体制の規定はない。地域の人に災害時の協力を依頼している。	火災は夜間が多いこともあり、避難訓練は夜間帯にも実施すること、災害時における法人内相互協力体制の規定を作成すること、以上の2点が求められる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重とプライバシー保護は介護者としては必須であるが守れない職員もいる為、常時厳重注意を行っている。	利用者への対応や言葉遣いについて職員研修を毎月実施している。言葉は敬語を使うことにしており、職員はお互いに注意しあっている。職員会議は利用者のいない1階で実施、職員同士の日常の申し送りは居間で実施することもあり、小声にして、利用者のプライバシーに配慮している。暮らしではどんなことも利用者に選択してもらいたいと、飲み物等もお茶だけでなく、紅茶、コーヒー、ココア等を準備している。外出時に利用者自身がおしゃれな服を選び、お化粧をする人もいる。利用者の髪型は訪問理美容が2か月に1回来訪する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、希望が表出出来るよう多くの会話を積み重ね、信頼関係を築いていけるよう日々努力している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にし、決して介護優先にならないよう心掛けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中は普段着、外出時は本人の希望も取り入れ、少しオシャレしてもらうよう声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	手作り野菜を利用者と一緒に収穫し食事の一品にしたり食後の跡片付けは利用者に手伝ってもらっている。職員は利用者と一緒に食事していない。	朝食は職員が利用者の食べたいものを聞き、献立を立て、手作りしている。昼食と夕食はこはんとみそ汁をユニットで手作り、副菜は調理済みのものをタイヘイから購入、湯煎して盛り付けている。利用者は食器洗い等をしている。	食事は高齢の利用者にとって生活の中の大きな楽しみである。職員は利用者と一緒に会話しながら、食事を楽しむこと、時には鍋を囲む、焼きそはを焼く、ちらしずしを混ぜる等利用者が参加できることを1週間に1回くらい計画すること、コロナ禍で外食ができないなら、地域の有名店から寿司や松花堂弁当等の出前をとり、豪華さを楽しむこと、以上の3点が求められる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は表に記入しており、健康管理の参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本本人で口腔ケアを行ってもらっている。出来ない方や、		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツ、リハビリパンツ、オムツの方がおられるが可能な方についてはリハビリパンツ→布パンツ、オムツ→リハビリパンツに変更出来るよう一人一人の排泄パターンを把握し自立に向けての支援を行っている。	尿意がありトイレの場所を知っていて自身が処理できるという、排泄の自立をしている利用者は7人、あとの利用者はリハパンとパット使用、排泄パターンを把握している職員が声掛けしている。おむつを使用していた利用者が9人、パット使用になり、パット使用の利用者が8人、布パンツ使用に、それぞれ改善している。排便は自然排便を支援しており、下剤を常用で服用している利用者はいない。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便パターンを把握し、便秘のならないよう適宜主治医と相談し下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の入浴日は決まっているが入浴に拒否が強い方が何人かおられる。気分良く入ってもらえるよう声掛けに工夫をしている。本人の気分、タイミングに合わせて入浴日以外の日でも入って頂く様支援している。	浴室は家庭風呂にユニットバスを据えている。毎日入浴の準備をし、利用者に声掛けし、「入りたい」という人を支援している。毎週3回入っている人もある。「入りたくない」が毎日続く人には工夫し、午前中なら入る人がある。拒否の人も1週間以内には入浴できている。利用者はゆったりと湯に浸かり、介助の職員との会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日中フロアーにいる事が苦痛に感じ取れる方もおられる。適宜居室で休んで頂くよう配慮している。又、夜間は安心して就寝出来るよう、声掛けを工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服薬している薬剤と副作用を理解してもらうよう指導に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意とした物を見つけ出し、本人に提案してみる。興味を示してもらえば手早く実行していく。この場合必ず評価もおこなうようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は新型コロナの為遠方への外出は出来ず。気分転換に敷地内での日光浴や畑仕事を手伝ってもらったり、少人数、短時間のドライブにお連れしたりした。	気候が良く、天気が好ければ、車椅子の人も歩行困難な人もふくめてほとんど毎日庭に出て風景を眺め、おしゃべりし、お茶したりしている。畑仕事に精を出す人もいる。ドライブは少人数ずつ出かけている。琵琶湖方面へ行くことが多い。「○○へ行きたい」「○○を買いに行きたい」等利用者から希望が出れば、職員が個別に同行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者による金銭管理は原則的にしてもらっていない。必要に応じて家族に依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればスタッフが家族に電話し本人に繋ぐ。又、からの電話は必要時本人に繋いでいる。家族から本人へのお手紙などは随時お渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓、清掃された空間作りを徹底している。又、居間の壁には季節感が味わえるようなものを利用者と一緒に手作りして飾っている。	道路から急坂を上がると建物がある。周りに庭があり、長椅子を置いている。ここで利用者が辺りの景色を眺め、お茶したりしている。畑で野菜を育てている。グループホームは2階と3階にあり、ユニットの入口に水仙の花を生けている。中央にミニキッチン付きの居間兼食堂（ホール）、大きな窓があり明るく、クリスマスツリーが賑やかな雰囲気を出している。ホールの壁には行事の写真、利用者と職員が合作した季節の飾り絵を掲示し、温かい雰囲気を出している。片隅にテレビコーナーがあり、ベッドを置き、利用者が好きな事を自由に楽しむ場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々が会話を楽しめるよう、席配置を考え、又、単独でゆっくりしてもらう空間作りも工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人の馴染まれた物を持ち込んで頂いている。	居室は洋間、エアコン、カーテン、ベッドを設置している。利用者は寝具類、テレビ、ドレッサー、CD、編み物の道具と毛糸等を持ちこんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰な支援にならないよう、自立支援に向けて出来る事はなるべくしてもらっている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心して暮らせるよう介護者はその人らしく生活が出来るよう取り組んでいる。	以下の項目すべて2Fユニットに同じ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶から始まり、災害など発生時は共に協力出来るよう日頃から交流を持つようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域イベントには出来るだけ参加し、地域住民との交流を図る予定ではあったが、今年は新型コロナの為殆どのイベントが中止になり実践出来てない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナの影響で今年は7月から開催した。主に感染予防について話し合い非常に参考になった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から電話連絡したり必要時は役所に出向き相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の立場に立ち、拘束なしの介護を実践中。禁止されている拘束の具体的行為についての学習は紙面で行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者が安心して暮らせるよう、虐待に繋がるような発言、行動には全職員が注意し合えるような職場を目指し実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については必要時、職員と話し合い活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者、家族様にご理解、納得してもらうよう十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族様が常に意見、要望が言える様、配慮を心掛け、頂いたご意見は職員と共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主には職員会議で話し合うが緊急を要する件については随時話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得へのバックアップ、職員が気安く話せる雰囲気作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人個人の必要な研修参加のバックアップは図られている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議等に参加しサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ本人の思いが表出出来るよう声掛けし、安心してもらうよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を知る上で家族様からお話を聞く事は必須である。様々なお話をしていく事で関係性を深める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設で出来るサービスの説明をした上で本人、家族が必要としているサービスの優先度を見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に生活しているという理念を忘れず支援するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとっては家族はかけがいのない存在であると言う事を念頭に置き、家族の意見を大事にしながら共に本人を支えていくよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の馴染みの方との面会は随時して頂いており、支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の話の輪に入れてもらい、トラブルが生じないよう見守りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も必要時は相談、対応に応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の思いを重視しながら支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの段階で出来るだけ詳しく情報収集するよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	可能な限り、本人の思いに沿った生活をして頂く様支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング以外にも変化があった時は随時話し合い、最も有効な介護計画を作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過に問題点、気づきや工夫は出来るだけ記述するようにしている。それを元に話し合い、介護計画の見直しに役立たせている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ柔軟に取り組むようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であっても、感染予防を十分に行いながら、ドライブを楽しんだり、前庭の畑、景色を眺めて頂く様な支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、契約時に説明し、納得頂いた上で入所してもらっている。本人には適切な医療を受けてもらえるよう、提携診療所と常に連携している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師とは密に連携し、利用者には適切な医療を提供するように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来る限り本人の経過情報収集に努めている。入院時は必ずサマリーを送り、病院との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態把握に努め、主治医、家族との連携を密にしながら、なるべく早い段階で主治医から家族に説明してもらうようにしている。この場合、施設で出来る事は家族に説明しておく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応訓練はあまり出来てなく、ほぼ実践的である。実践しながら、教育に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練は実施している。又、運営推進会議メンバーである消防員の方からは随時避難ノウハウをご指導頂いている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシー保護は介護者として当然守るべき事であると認識している。利用者に不快な思いをさせないよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方でも思いを表出出来るよう声掛けに工夫するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側にも色々な事情があると思われるが、その都合は利用者には関係がない。いつ時も利用者本位で考え、支援していくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍でお出掛けが困難であるが、施設内での行事参加時には出来るだけおしゃれして頂くように声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	玄関先の畑で利用者と一緒に収穫し、何を作るかを共に考え、食事の一品に加えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取習慣は様々である。一人一人を尊重し、栄養バランスが保持出来るよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして頂いている。本人の状況に応じて随時支援し、観察している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の可能性を最大限出して頂く為、排泄の自立に向けた支援は適宜行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便パターンを把握し、主治医と相談しながら便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応、決められた入浴曜日はあるが、その通りには行かない事も多い。利用者の気分、状態に応じて入浴日、時間は変えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が安心、安楽に過ごして頂けるよう、お一人お一人の睡眠パターンを把握するようにしている。適宜、休息して頂く支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬内容の把握は当然な事と認識している。与薬時は緊張感を持ち、誤薬に注意喚起している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の出来る事を把握し、日々過ごす上で、出来るだけ楽しんで頂き、充実感のある生活をしてもらえるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で戸外へのお出掛けは現在困難であるが、施設内で、色々なイベントを企画し、参加して頂けるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	規則的に利用者はお金を管理出来ないが、適宜利用者の希望を聞き、家族と相談の上、購入に至っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは職員がしている。家族への電話は特別な事情がなければ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は危険な物を置かないよう配慮している。又、季節感が感じられる、作り物を壁や天井に飾ったりし楽しんで頂く様配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時は席が決まっているが、それ以外の時間帯は、思い思いに座って頂いている。レクレーションを通じながら居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染まれたものの持ち込みは許可している。怪我等がないよう配置に十分注意している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では利用者が安全にかつ自由に移動して頂けるよう、居室位置の配慮もしている。		